

令和7年度秋田県小・中・高等学校学校体育担当者連絡協議会

【解説②】

「体育・保健体育の重点について」

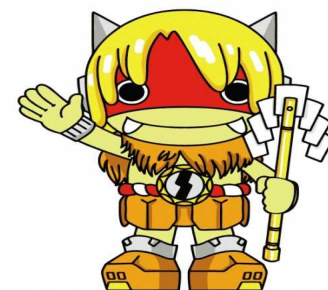


©2015秋田県んだッチ

秋田県教育庁保健体育課
学校体育・部活動チーム

【 内 容 】

1. 本県における学校体育の方向性
2. 体育・保健体育の目指す子どもの姿と教科指導の重点
3. 体育・保健体育の授業づくりに向けて

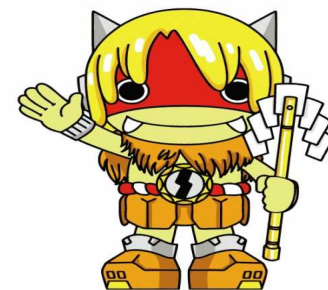


【 内 容 】

1. 本県における学校体育の方向性

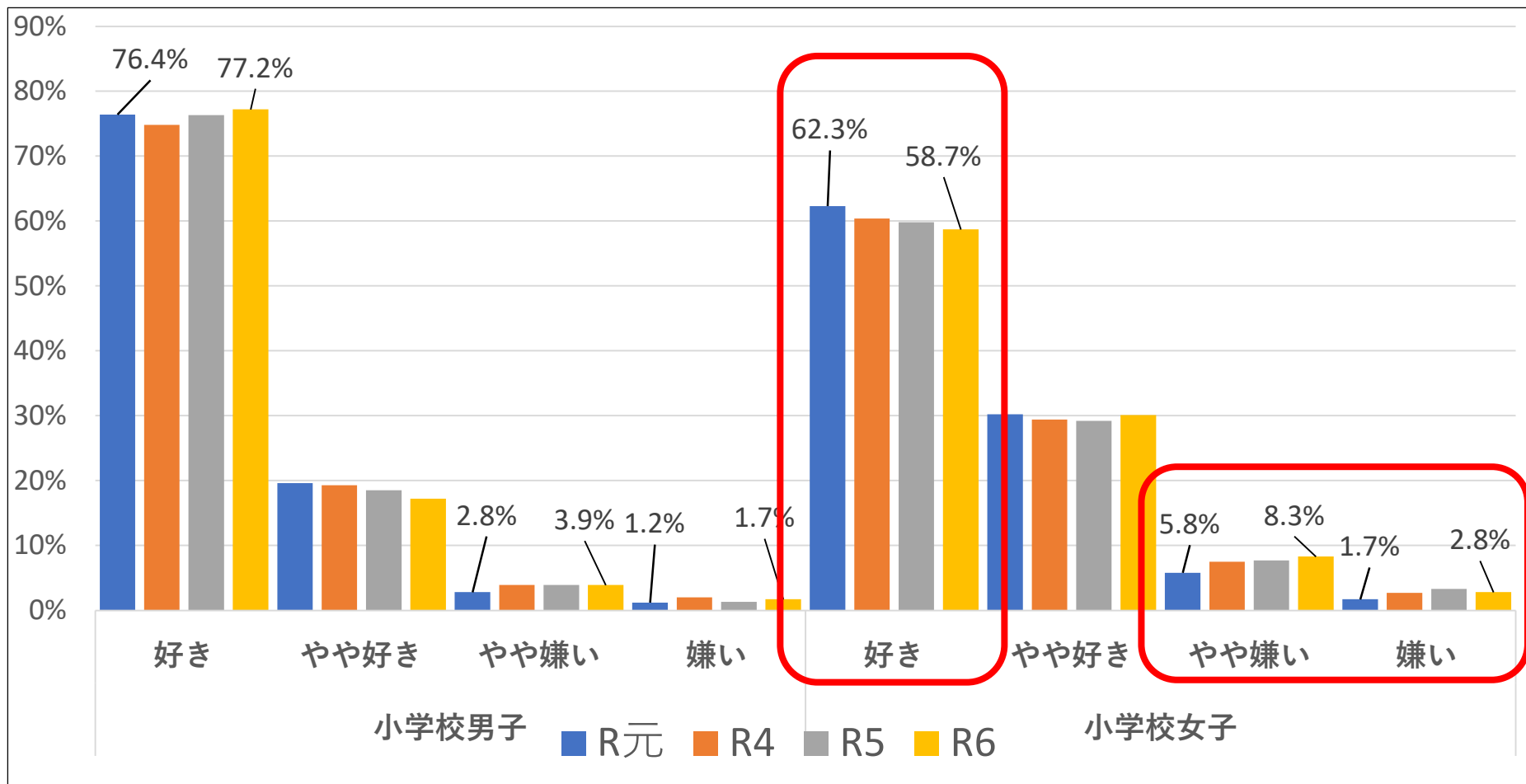
2. 体育・保健体育の目指す子どもの姿と
教科指導の重点

3. 体育・保健体育の授業づくりに向けて



子どもたちの運動やスポーツに対する意識

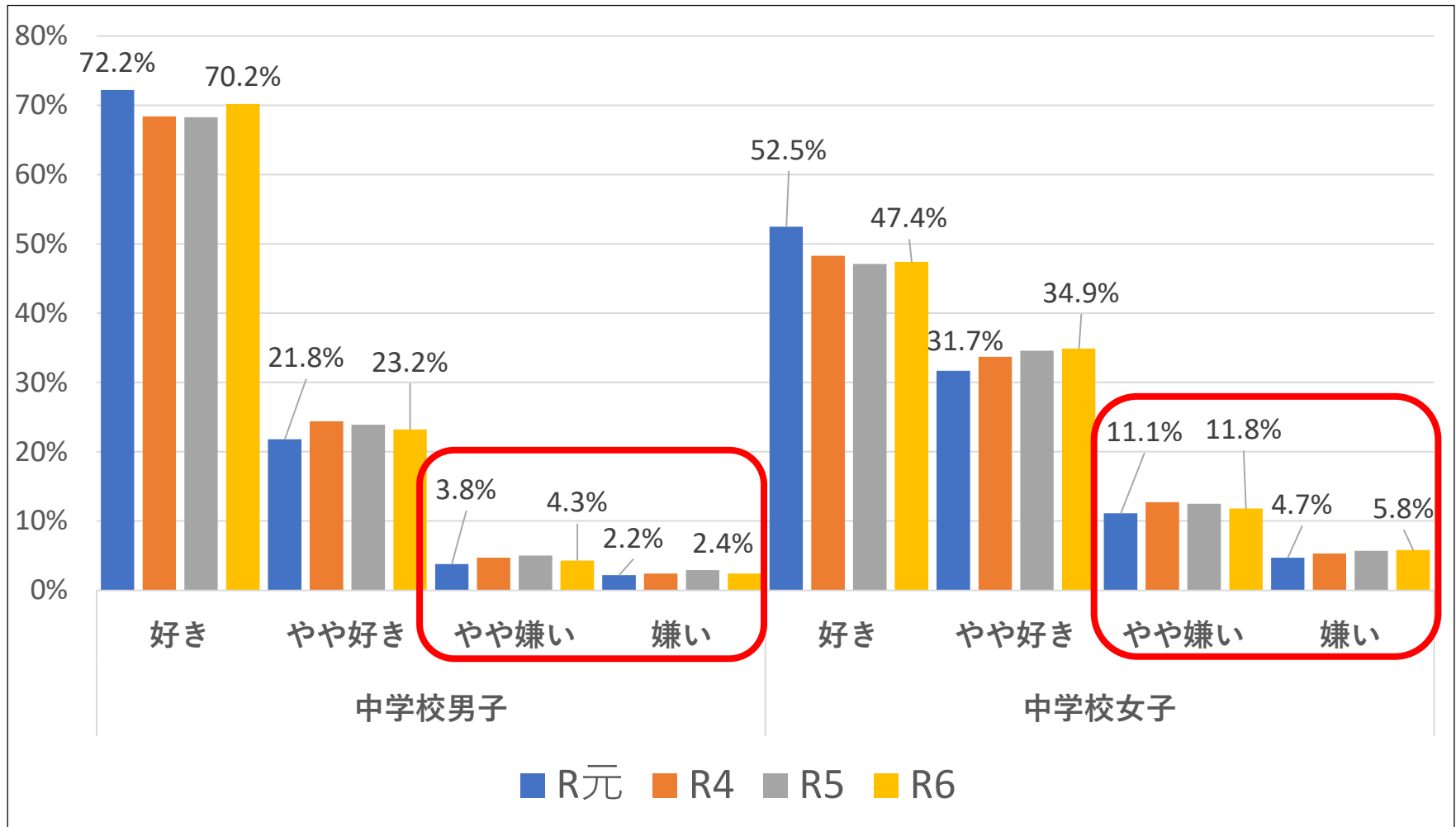
「運動やスポーツをすることが好き」の割合 <県内小5児童>



R元・4・5・6 全国体力・運動能力、運動習慣等調査（スポーツ庁）より

子どもたちの運動やスポーツに対する意識

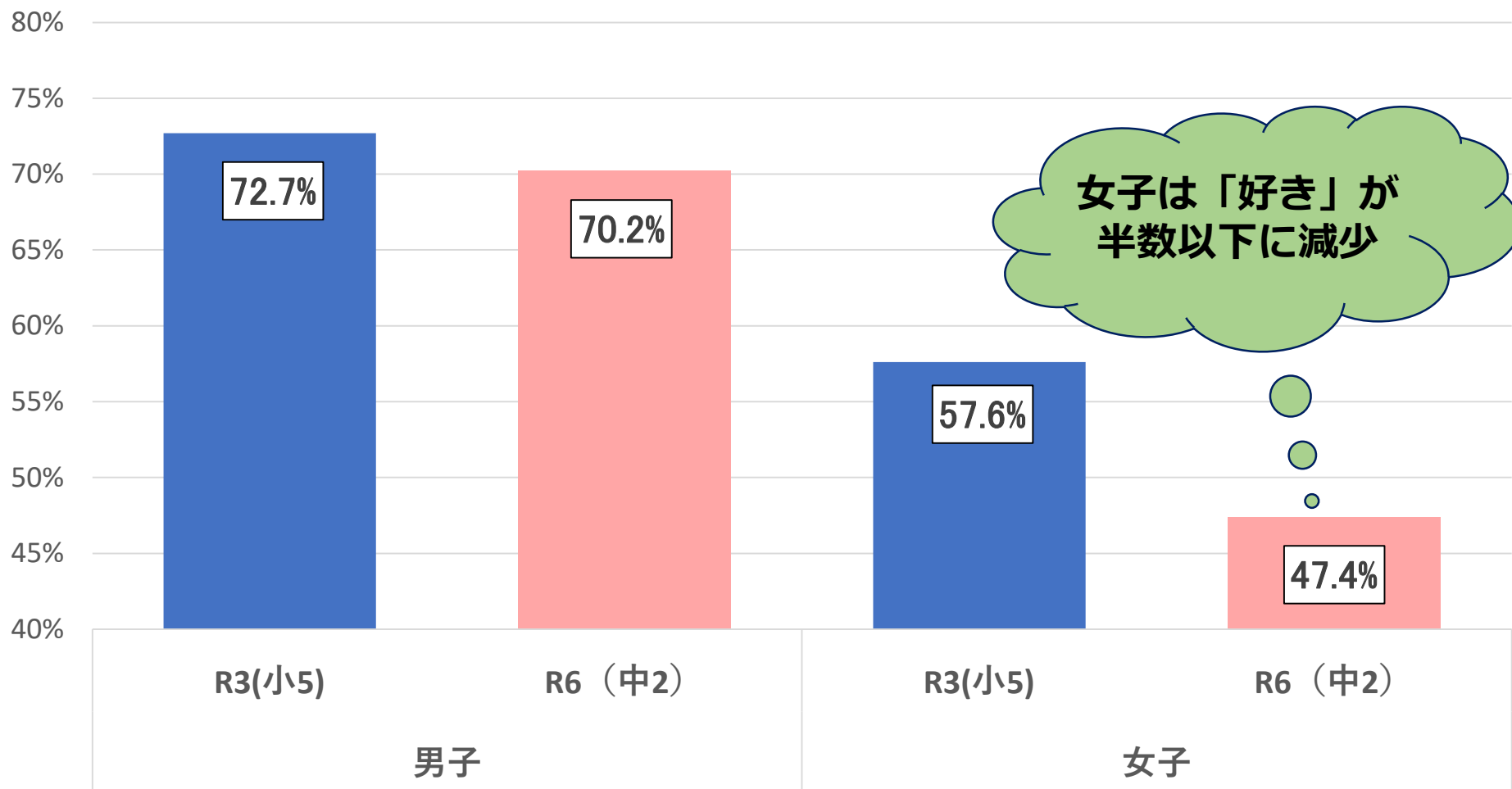
「運動やスポーツをすることが好き」の割合 <県内中2生徒>



R元・4・5・6 全国体力・運動能力、運動習慣等調査（スポーツ庁）より

子どもたちの運動やスポーツに対する意識

「運動やスポーツをすることが好き」の変化 < R 3の小5 → R 6の中2 >

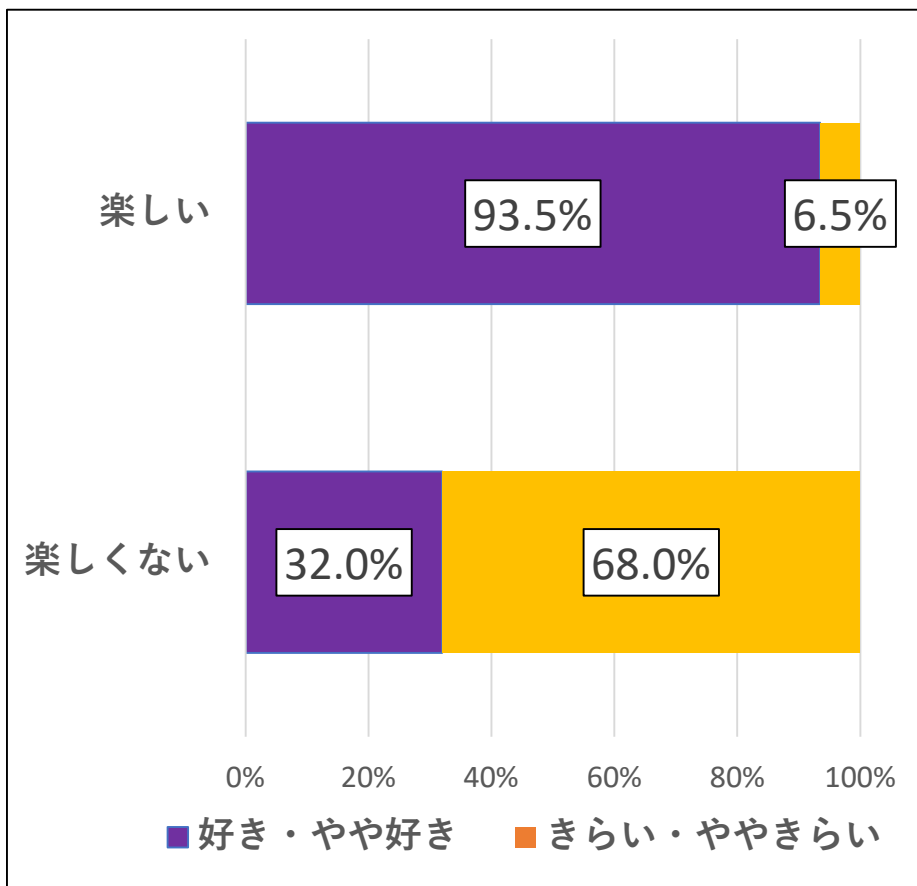


R 3・6 全国体力・運動能力、運動習慣等調査（スポーツ庁）より

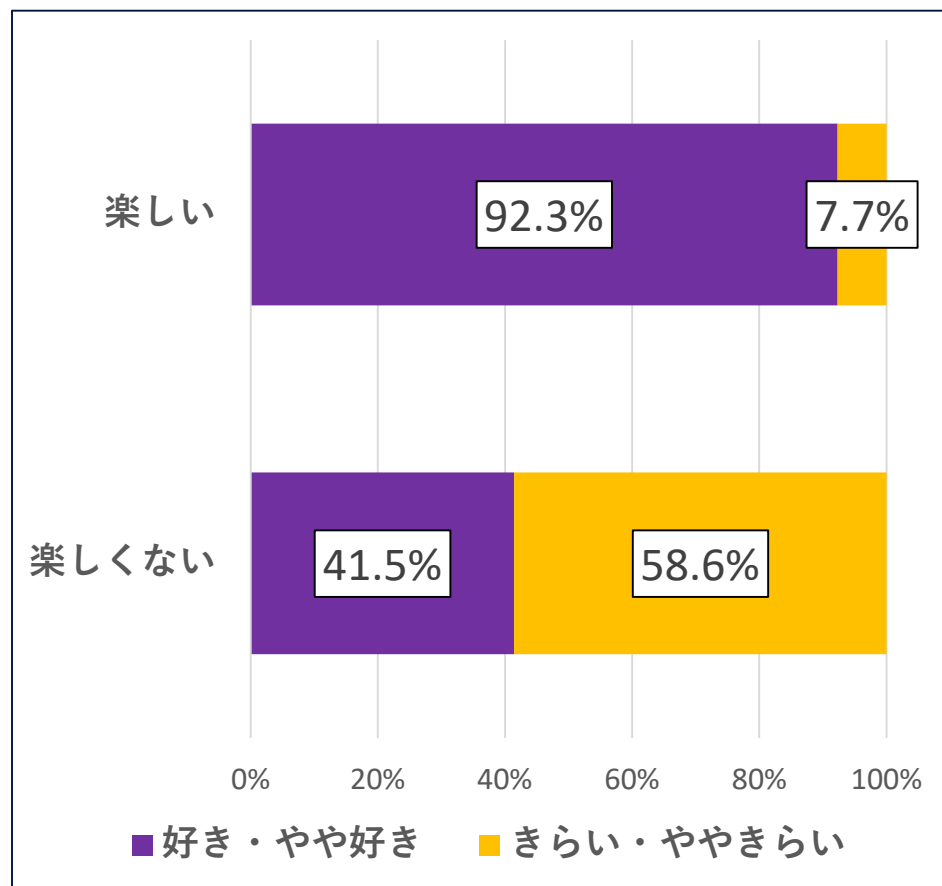
子どもたちの運動やスポーツに対する意識

「運動やスポーツをすることが好き」×「体育の授業が楽しい・楽しくない」

◇小5児童



◇中2生徒



R 6 全国体力・運動能力、運動習慣等調査（スポーツ庁）より

「運動やスポーツが好き」から「豊かなスポーツライフ」へ導く授業づくり

運動や
スポーツ
が好き

運動やスポーツ
への積極的
(自主的、主体的)
な態度

生涯にわたる
豊かなスポーツライフ
の実現 (継続)

運動やスポーツの楽しさや喜びを味わうことが
できる授業づくりが大切である。



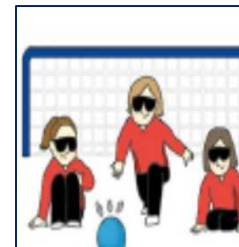
する



みる



支える



知る

運動やスポーツとの多様な関わり方を重視した体育の授業づくり

小学校 体育科の目標（柱書き）

体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を見付け、その解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し**豊かなスポーツライフ**を実現するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

特性に応じた楽しさや喜び



体力の向上

見方
・
考え方

運動やスポーツ
との多様な
関わり方



体育は「技能」
だけでない

知識及び
技能

思考力、
判断力、
表現力等

学びに向
かう力、
人間性等

三つの資質・能力を
バランスよく育成

保健は「知識」
だけでない

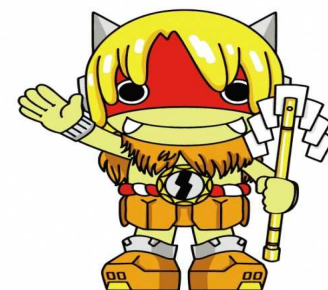
豊かなスポーツライフ

【 内 容 】

1. 本県における学校体育の方向性

**2. 体育・保健体育の目指す子どもの姿と
教科指導の重点**

3. 体育・保健体育の授業づくりに向けて



令和7年度 学校教育の指針：体育・保健体育の重点

重点 1

全ての児童生徒が運動の楽しさや喜び
を味わうための指導の充実

重点 2

「体づくり運動」の充実

重点 3

健康課題を解決する保健の指導
の充実



P. 50-51 参照

重点 1～3 は、昨年度から大きな変更はありません。

学校教育の指針「令和7年度の重点」：各教科等の重点

体育・保健体育

▶指針 p 50、51

①体育の見方・考え方を働かせ、多様な関わりから運動の大切さを実感できる指導の工夫

(運動に関する領域)

- ◇児童生徒の興味・関心と見方・考え方を結び付けられるよう、効果的な教材や発問を準備するなど、指導方法を工夫する。
- ◇ねらいを達成した児童生徒の姿を明確に示した上で、児童生徒の実態や運動の特性を踏まえた学習過程を工夫する。

②健康・安全に関する実生活の課題を発見し、解決するための指導の工夫

(保健に関する領域)

- ◇健康・安全の大切さを実感できるよう、「課題発見」「比較」「関連付け」等の活動を効果的に取り入れる。
- ◇健康課題の発見や解決をするために、習得した知識を生活に適用したり、応用したりする学習過程を工夫する。

令和6年度 成果と課題

- 児童生徒が「できた」を実感できる指導の工夫により、運動を楽しんだり、喜びを味わったりする授業が展開されてきている。
- 資質・能力の育成に関わる指導内容の関連付けや、単元の計画を工夫する必要がある。

令和7年度 目指す児童生徒の姿

- 「する・みる・支える・知る」の多様な関わり方を通して、自ら進んで運動に親しみ、運動の大切さを実感することができる。
- 情報を適切に選択・収集・活用し、健康や安全に関する課題を発見・解決することができる。

学校教育の指針

令和7年度の重点



重点的な教育課題

地域に根ざしたキャリア教育の充実
“「問い」を発する子ども”の育成

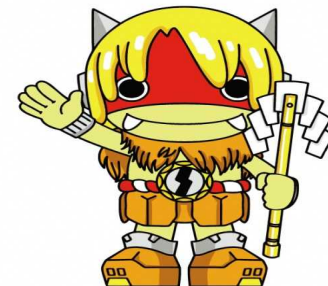


秋田県教育委員会

P.7参照

※ □のチェックボックスを活用して自己評価 下線は各教科等で目指したい“「問い」を発する子ども”の姿に関するもの

運動に関する領域について



©2015秋田県んだッチ

R 7 年度 目指す児童生徒の姿 <運動に関する領域>

- 「する・みる・支える・知る」の多様な関わり方を通して、自ら進んで運動に親しみ、運動の大切さを実感することができる。

重点① 体育の見方・考え方を働かせ、多様な関わりから運動の大切さを実感できる指導の工夫



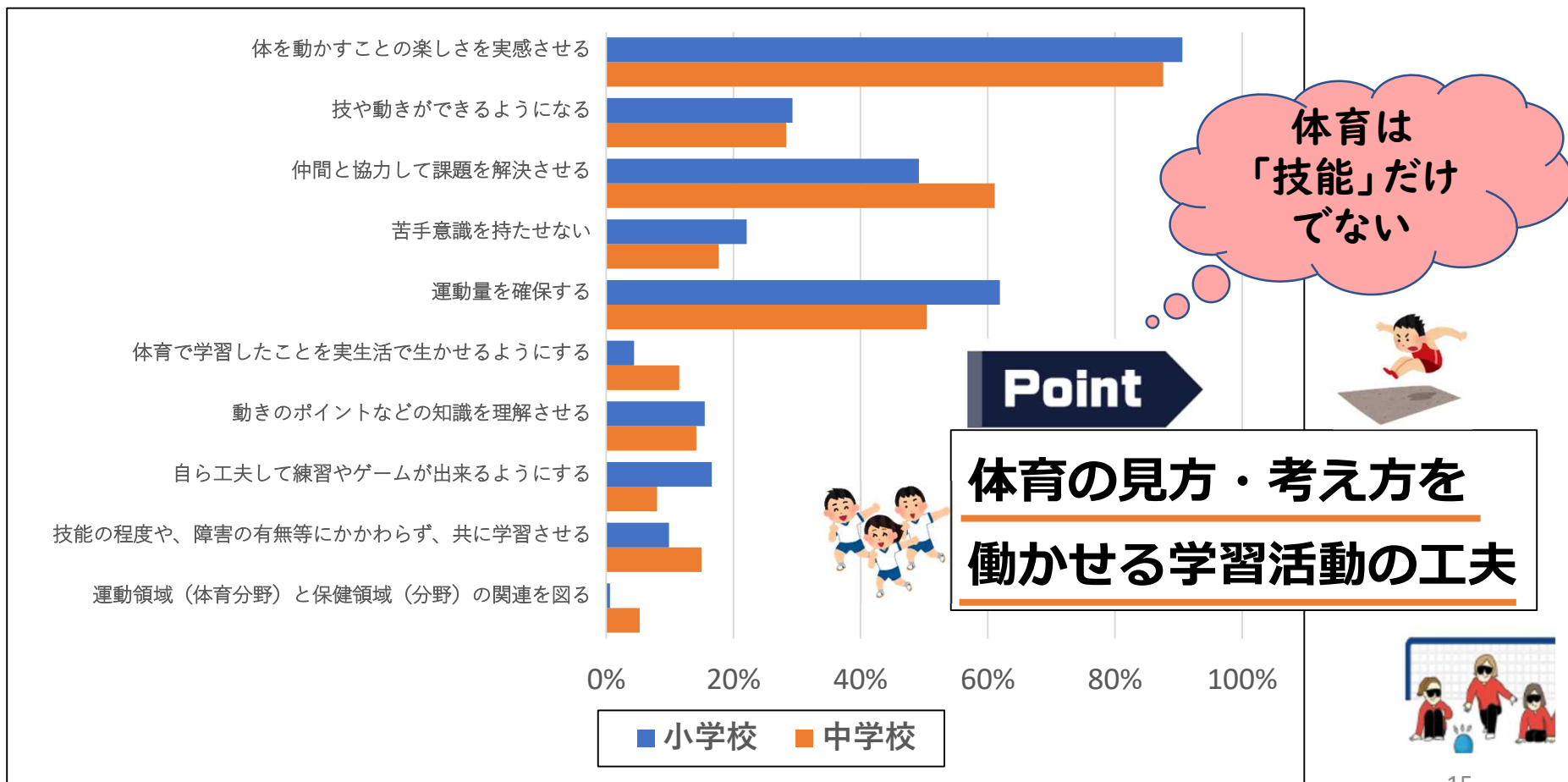
「する・みる・支える・知る」の運動やスポーツへの多様な関わり方を意識した指導

第39回秋田県学校体育研究大会 能代山本大会
中学校第3学年「マット運動」の授業より

取組事項

◇児童生徒の興味・関心と体育の見方・考え方とを結び付けられるよう、効果的な教材や発問を準備するなど、指導方法を工夫する。

◇「体育・保健体育の授業で大切にしていること（上位3つ）」



運動やスポーツとの多様な関わり方を重視した体育の授業づくり

特性に応じた
楽しさや喜び

体力の向上

運動やスポーツ
との多様な
関わり方

体育の見方
・考え方

体育の見方
・考え方

体育の見方
・考え方

単元や時間のまとまりの中で
繰り返し働かせる

見方・考え方を働かせている
姿に対する称賛や価値付け

子どもの姿をイメージ

問い、場や活動の設定



◇ねらいを達成した児童生徒の姿を明確に示した上で、児童生徒の実態や運動の特性を踏まえた学習過程を工夫する。

Point

運動の特性を踏まえた授業づくり

運動の楽しさや喜びを味わうことができる体育・保健体育授業の実現

B 器械運動

【第1学年及び第2学年】

器械運動は、マット運動、鉄棒運動、平均台運動及び跳び箱運動で構成され、器械の特性に応じて多くの「技」がある。これらの技に挑戦し、その技ができる楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。

小学校では、技ができることや技を繰り返したり組み合わせたりすることを学習している。

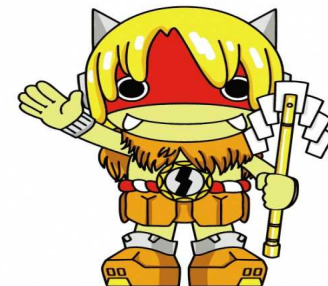
機能的特性

教師が各領域の機能的な特性を理解した上で、各領域の運動の楽しさや喜びを味わうことのできる授業について試行錯誤することが、主体的な学びを実現するとともに、「運動は楽しい」そして「体育の授業は楽しい」という子どもを育てることにつながる。

とを理解するとともに、技がよりよくできるようにする。その際、技などの自己

中学校学習指導要領解説保健体育編（P.63）一部抜粋

保健に関する領域について



©2015秋田県んだッチ

R 7年度 目指す児童生徒の姿〈保健に関する領域〉

- 情報を適切に選択・収集・活用し、健康や安全に関する課題を発見・解決することができる。

重点② 健康・安全に関する実生活の課題を発見し、解決するための指導の工夫



選択



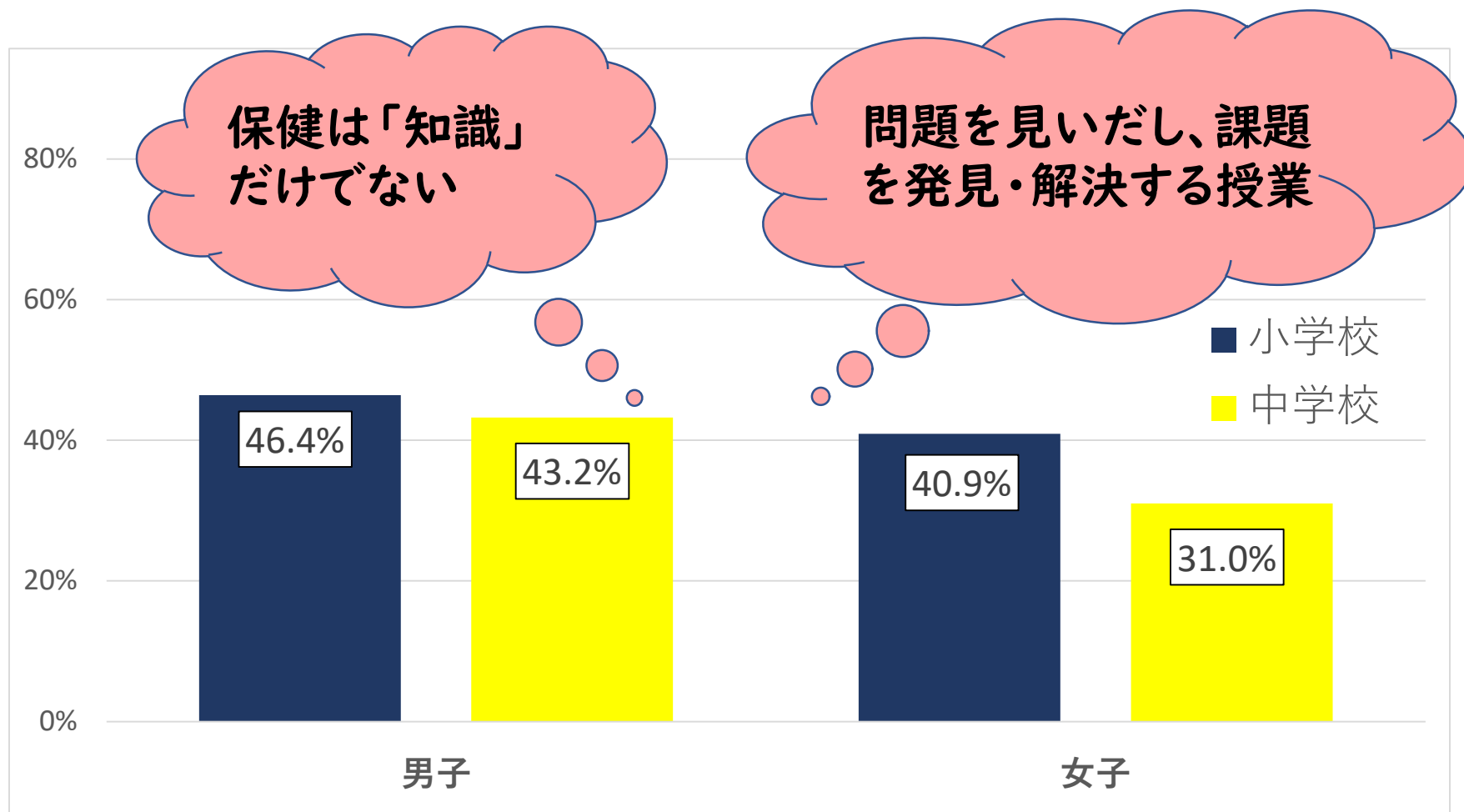
収集



活用

目指す姿の実現に向けた授業づくりの視点

「保健の授業で学習した運動、食事、休養および睡眠に気をつけた生活を送れていると思いますか。」に「思う」と回答した児童生徒の割合



取組事項

- ◇健康・安全の大切さを実感できるよう、「課題発見」「比較」「関連付け」等の活動を効果的に取り入れる。
- ◇健康課題の発見や解決をするために、習得した知識を生活に適用したり、応用したりする学習過程を工夫する。

Point

保健の見方・考え方を働かせる「深い学び」の実現

保健の見方・考え方

個人及び社会生活における課題や情報を，健康や安全に関する原則や概念に着目して捉え，疾病等のリスクの軽減や生活の質の向上，健康を支える環境づくりと関連付けること

【（小）解説体育編（P.18）（中）解説保健体育編（P.25）（高）解説保健体育編 体育編（P.22）】

知識の概念としての理解

「病気の予防」 （小学校第 6 学年） 【知識】

(ア) 病気の起こり方

日常経験している病気として「かぜ」などを取り上げ、病気は、病原体、体の抵抗力、生活行動、環境などが関わりあって起こることを理解できるようにする。

概 念

(イ) 病原体が主な要因となって起こる病気の予防

病原体が主な要因となって起こる病気として、インフルエンザ、麻疹、風疹、結核などを適宜取り上げ、その予防には、病原体の発生源をなくしたり、移る道筋を断ち切ったりして病原体が体に入るのを防ぐこと、また、予防接種や適切な運動、食事、休養及び睡眠をとることなどによって、体の抵抗力を高めておくことが必要であることを理解できるようにする。

原 則

「保健の見方・考え方」を働かせた深い学びのイメージ

(例) 小学校保健領域 第6学年「病気の予防」

疾病や傷害を防止するとともに、生活の質や生きがいを重視した健康に関する観点



病原体が主な要因と
なって起こる病気の予
防に関する課題や情報

踏まえる

個人及び社会生活
における課題や情報

関連付ける

疾病等のリスクの軽減
生活の質の向上
健康を支える環境づくり

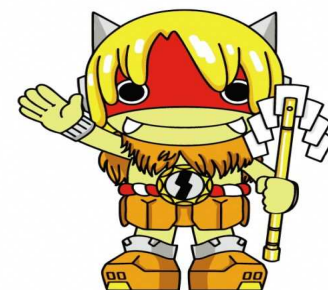
健康や安全に関する
原則や概念に着目

学んだことを教室の外へ！

「実践力」

【 内 容 】

1. 本県における学校体育の方向性
2. 体育・保健体育の目指す子どもの姿と教科指導の重点
- 3. 体育・保健体育の授業づくりに向けて**

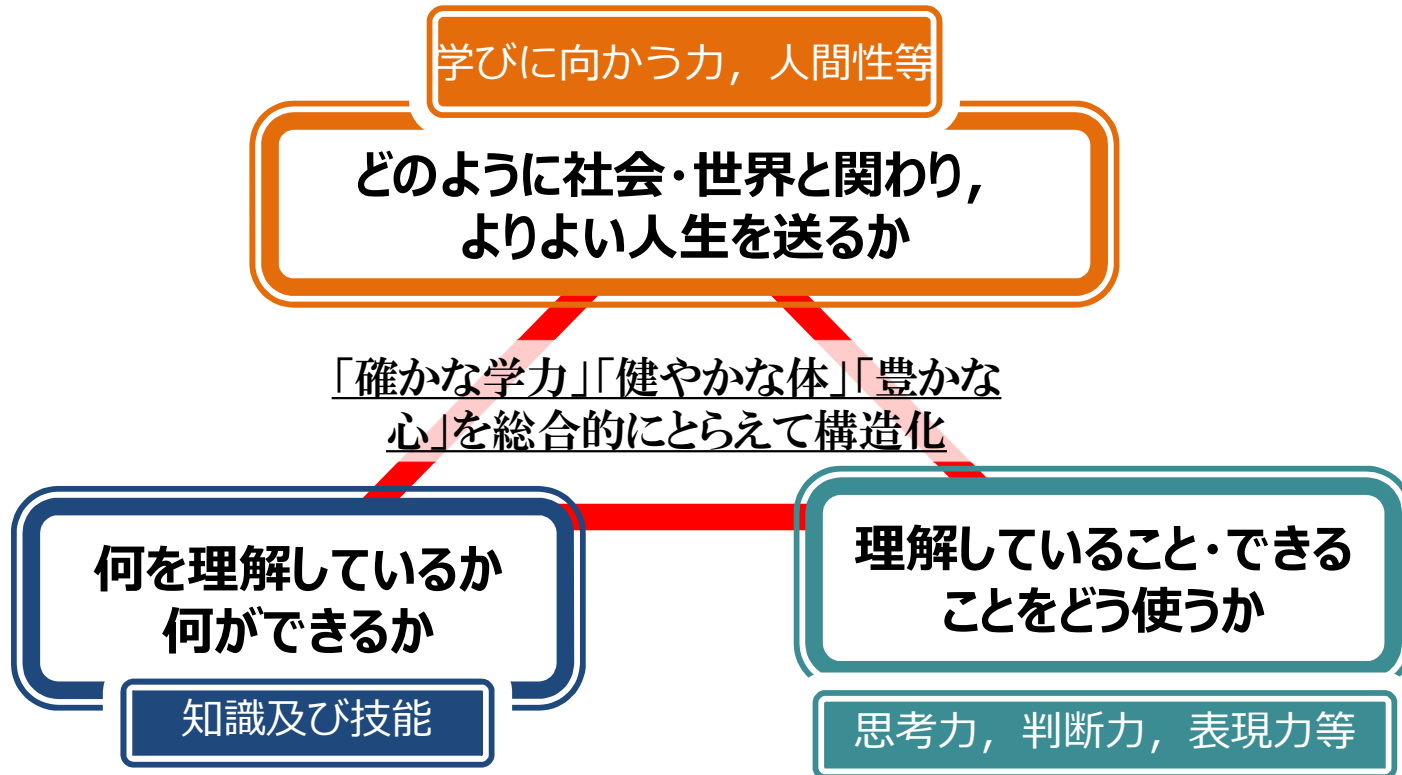




「体育・保健体育は、何を学ぶ教科ですか」
～体育・保健体育の学習を通して何を学ぶのか？～



育成を目指す資質・能力の三つの柱



【参考】学校教育法第30条第2項

生涯にわたり学習する基盤が培われるよう、基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくみ、主体的に学習に取り組む態度を養うことに、特に意を用いなければならない。

育成を目指す資質・能力の三つの柱

生涯にわたる豊かなスポーツライフを
実現・継続する資質・能力の育成

〇〇を教える < 〇〇で教える

知識及び技能

思考力、判断力、表現力等

【参考】学校教育法第30条第2項

生涯にわたり学習する基盤が培われるよう、基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくみ、主体的に学習に取り組む態度を養うことに、特に意を用いなければならない。